

道徳的価値の自覚を深める道徳学習指導 ～他者とのかかわりを生かした表現活動の工夫を通して～

要約

21世紀は、新しい知識や情報、技術が社会のあらゆる領域で活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。それを活用する人間側の問題から様々な影響も出てきており、児童の道徳性の発達を阻害している現象も多く指摘される。その背景には、社会全体のモラルの低下や家庭や地域社会での教育機能の低下、社会体験・自然体験の不足など諸問題が挙げられている。そのような社会の変化に伴い、子どもたちの豊かな人間性や社会性などを育む道徳教育の充実がますます重要になっている。本学級では、週に一時間の道徳の学習を楽しみにしている子どもが多い。しかし、道徳の時間に学習したことを理解し、進んで実践しようとしている子どもの姿はあまり見られない。そこで、他教科との関連を図り、他者とのかかわりを生かした表現活動を仕組みながら、道徳的価値の自覚を深める学習を進めていくことは大変意義深いと考える。そのために、次のような具体的方策のもと、研究を進めていくことにした。

- ① 主題は「道徳的価値の理解」から「道徳的価値の把握」さらに「道徳的価値の実践化」という順序で配列する。
- ② 他者とのかかわりを生かした体験活動は3段階で構成し、各段階で得られた道徳的見方や感じ方、考え方が深まるように、それぞれの活動の後に位置づける。
- ③ 道徳の学習過程は道徳的価値の自覚が深まるよう、「つかむ→求める→生かす」の3段階で設定する。
- ④ 道徳の時間における具体的手立てとして、体験を生かす工夫や表現活動を工夫する。実践の結果、次のような成果（○）と課題（●）を得た。
 - 主題を「道徳的価値の理解→道徳的価値の把握→道徳的価値の実践化」の順序で配列したことは、道徳の時間に生活科の体験を生かすことにつながり、家族を大切にする心をもった子どもを育てる上で有効だった。
 - 道徳の時間の前後に体験活動を位置づけたことは、自分自身の体験をもとにそのときの見方や感じ方、考え方を生かして物事を考え、道徳的価値の自覚を深める上で有効だった。
 - 道徳の時間の学習の中に他者とのかかわりを生かした表現活動（資料中の人物の気持ちを考える役割演技①、道徳的価値の実践化へつなぐ役割演技②）を2回取り入れたことは、ねらいとする道徳的価値を把握し実践意欲をもたせる上で有効だった。
 - 問題解決的な道徳の時間の学習
 - 生活科以外での体験活動との関連のさせ方

キーワード 道徳的価値 体験活動 表現活動（役割演技①②、話し合い活動）

1 主題設定の理由

(1) 社会的要請・現代教育の動向から

21世紀は、新しい知識や情報、技術が社会で飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。それを活用する人間側の問題から様々な影響も出てきており、児童の道徳性の発達を阻害している現象も多く指摘されている。その背景には、社会全体のモラルの低下や家庭や地域社会での教育機能の低下、社会体験・自然体験の不足など諸問題が挙げられている。そのような社会の変化に伴い、子どもたちの豊かな人間性や社会性などを育む道徳教育の充実がますます重要になっている。そこで、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てる必要があると考え、本主題を設定した。

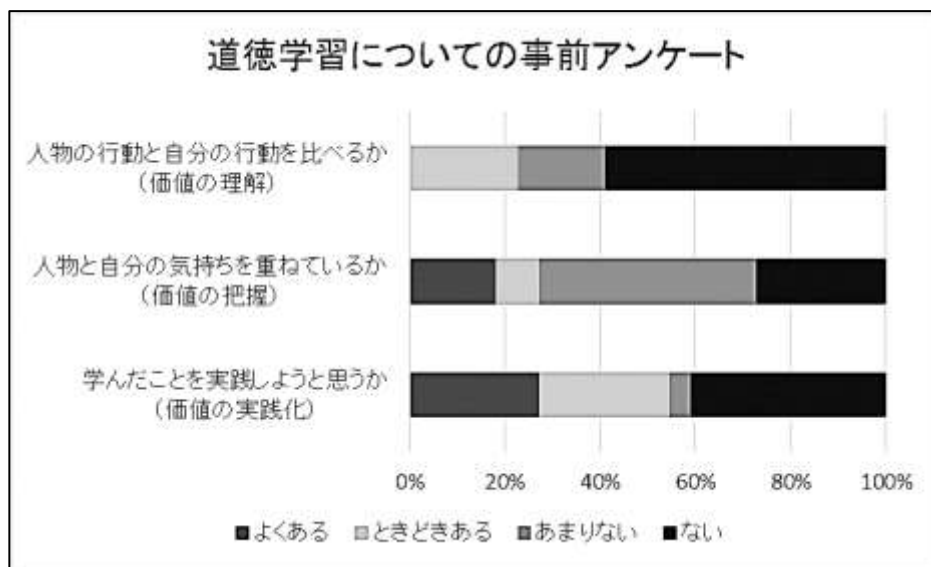
(2) 道徳教育のねらい・「学習指導要領解説特別の教科道徳」から

内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな情操などは、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要である。直面する様々な状況の中で、自分がすべきことを考え判断し、手立てを考え、実践できるようにしていくことは大切である。このことから、道徳的価値の自覚を深める道徳学習を行うことは、道徳教育のねらいからも極めて重要であると考え。

「道徳に係る教育課程の改善について」の答申を踏まえ、「道徳」を「特別の教科である道徳」とし、学習指導要領の一部が改正された。この改正は、発達の段階に応じ、道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。特に道徳性が効果的に養えるように、児童の日常的な体験、集団宿泊的活動、ボランティア活動、自然体験活動など多様な体験活動を工夫することが挙げられている。そこで、生活科と道徳の時間の学習を関連させ他者とのかかわりを生かした活動を仕組むことで、道徳的価値の自覚を深めることができると考え、本主題を設定した。

(3) 児童の実態から

本学級では、週に一時間の道徳の学習が大切だと思っている子どもが多い。しかし、【資料1】のアンケートの結果を見ると、資料中の人物と自分の行動を比べることがある、ときどきあると答えた児童が23%、資料中の人物と自分の気持ちを重ねる、ときどき重ねると答えた児童が28%と低い。これは、他者とのかかわりを生かした活動の手立て



【資料1 道徳学習についての事前アンケート】

が十分でなく、体験を想起して登場人物の気持ちを推し量ることができていなかったためと考える。また、学んだことを実践しようと思う、ときどき思うと答えた児童が 55% とあまり高くない。これは、追求した価値に関する今までの見方や感じ方、考え方を見つめ直し、これからの生活へ意欲を高めるような手立てが不十分だったためと考えられる。以上のことから、他者とのかかわりを生かした表現活動を工夫し、道徳的価値の自覚を深めていく必要があると考えた。

2 主題の意味

(1) 主題「道徳的価値の自覚を深める道徳学習指導」とは

道徳の時間は、教育活動全体で行われる道徳教育を、補充、深化、統合する要としての役割を担っている。つまり道徳の時間は、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値について学び、道徳的価値についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するための時間である。

「道徳的価値」とは、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。具体的には、社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識、自他の生命の尊重、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりだと考える。子どもたちが将来出会うであろう様々な場面、状況においては、いろいろな行為の可能性がある。その時の、人間としての心の基準となるものである。

「道徳的価値の自覚」とは、人間としてよりよく生きる上で大切なことをもとに自分自身を見たときに、現在の自分がどのような状況にあるのかを明確に把握することである。つまり、人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分のこととして感じたり考えたりすることであると言える。

「道徳的価値の自覚を深める」とは、道徳的価値の理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることである。そのために、まず、児童一人ひとりにこれまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら道徳的価値の理解を図ることができるようにする。次に、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、その道徳的価値を把握させる。他者の多様な見方や感じ方、考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめることができるようにする。最後に、道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、適切な行為を主体的に選択し、実践することができるようにする。道徳的価値の自覚を深めることで、道徳的実践力が確かなものになると考える。

(2) 副主題「他者とのかかわりを生かした表現活動の工夫を通して」とは

「他者」とは、家族、友だち、先生、地域の人、もの（副読本の人物）など、自分にとって身近な人やもののことである。他者とのかかわりの中で、様々な人やものの見方や感じ方、考え方を知ることができる。学習中における「他者とのかかわり」を道徳の時間に生かすことによって、道徳的価値の自覚を深めることができると考える。

「他者とのかかわりを生かした表現活動の工夫」とは、生活科の学習の体験と道徳の時間にねらいとする価値内容を関連づけることで、自分の体験を表現活動に取り入れ、様々な見方や感じ方、考え方を深めることである。生活科での様々な体験を道徳の時間

の学習に生かすことで、道徳的価値の自覚を効果的に深めるようにする。具体的には、【資料2】のような表現活動を道徳の時間の学習過程に位置づける。

つかむ段階（理解）	今までの体験をもとに、課題の内容の把握
求める段階（把握）	体験をもとに、資料中の人物の気持ちを考え、道徳的価値を把握するための表現活動（役割演技①）
生かす段階（実践化）	道徳的価値の実践化へつなぐための表現活動（役割演技②）

【資料2 段階に合わせた表現活動】

3 研究の目標

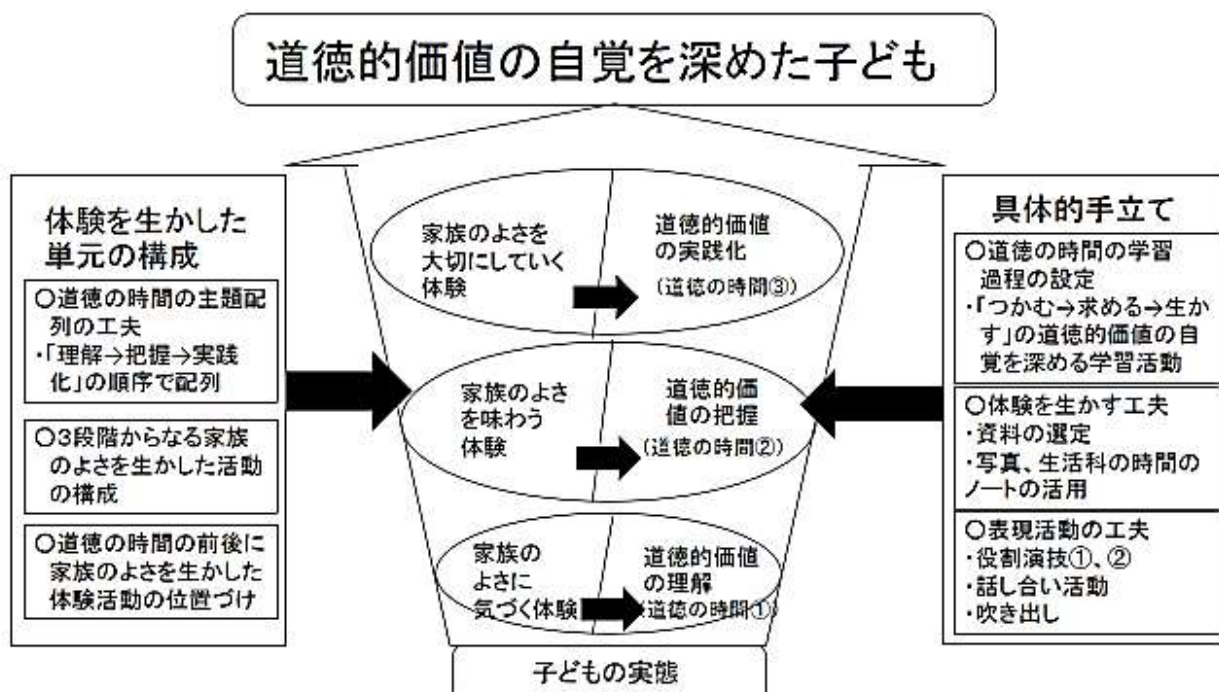
子どもたちの道徳的価値の自覚を深めるために、他者とのかかわりを生かした表現活動を工夫した道徳学習指導のあり方について究明する。

4 研究の仮説

道徳の時間の学習において、以下のように他者とのかかわり（本研究では生活科）を生かした表現活動の工夫を行えば、道徳的価値の自覚を深めることができるであろう。

- ① 道徳の時間の主題は「道徳的価値の理解」から「道徳的価値の把握」、さらに「道徳的価値の実践化」という順序で配列する。
- ② 他者とのかかわりを生かした体験活動は3段階で構成し、各段階で得られた道徳的見方や感じ方、考え方が深まるようにそれぞれの活動の後に道徳の時間の学習を位置づける。
- ③ 道徳の時間の学習過程は道徳的価値の自覚が深まるよう「つかむ→求める→生かす」の3段階で設定する。
- ④ 道徳の時間における具体的手立てとして、体験を生かす工夫や表現活動を工夫する。

5 研究の構想図



6 研究の実際

(1) 体験を生かした単元の構成について

段階	総合単元「かぞく、大すき！」	
	◎ねらい ○学習活動	
道徳的価値の理解	<p>(家族のよさに気づく体験)</p> <p>生活科「ひろがれえがお」</p> <p>○仕事をして、家の人が喜んでくれたことを思い出し交流する。</p> <p>○家族のために自分ができるような仕事がないか考える。</p> <p>○「ありがとうカード」を渡す。</p>	<p>道徳の時間①「お世話になっている人に感謝して」2-(4)感謝</p> <p>◎日頃お世話になっている身近な人々の存在に気づき、感謝の気持ちを行動に表そうとする態度を育てる。</p> <p>家族への「ありがとう」の気持ちをふくらませよう。</p> <p>○家族が自分にくれていることについて話し合う。</p> <p>○家族からの手紙をもとに、お世話をしてきている家族の気持ちや考えについて話し合う。</p> <p>ぼくたち、私たちのことを考えて仕事をしている。</p> <p>○自分たちの生活を振り返り、家族に「ありがとうカード」を書く。</p>
道徳的価値の把握	<p>(家族のよさを味わう体験)</p> <p>生活科「ひろがれえがお」</p> <p>○自分で決めた仕事を家で挑戦してみる。</p> <p>○実践したことから家族に喜んでもらえることを見つける。</p> <p>○これからも続けていけそうなことを考える。</p> <p>○「がんばるよカード」を渡す。</p>	<p>道徳の時間②「ぼくにまかせてね」4-(2)勤労</p> <p>◎働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする心情を育てる。</p> <p>仕事をする心をふくらませよう。</p> <p>○資料を読んで、家での仕事や係活動の経験をもとに「ぼく」の気持ちについて話し合う。</p> <p>○調理員さんからの手紙から、仕事に誇りや生きがいをもって取り組むよさに気づく。</p> <p>仕事をするよ、気持ちがいい。</p> <p>○自分にできる仕事や自分でできることを考え、「がんばるよカード」を書く。</p>
道徳的価値の実践化	<p>(家族のよさを大切にしていこう体験)</p> <p>生活科「ひろがれえがお」</p> <p>○自分でできるようになったことや家での仕事をカードにまとめ、発表会の準備をする。</p> <p>○「これからはカード」を渡す。</p> <p>○「笑顔いっぱい発表会」をする。</p>	<p>道徳の時間③「るすばん」4-(3)家族愛</p> <p>◎家族の役に立つことの喜びをとらえ、進んで家の手伝いなどをする態度を育てる。</p> <p>家族を大切に思う心をふくらませよう。</p> <p>○資料をもとに、「はるちゃん」の気持ちについて話し合う。</p> <p>家族の一人としてできることを</p> <p>○家族の様子に気づいて行動した自分の経験を出し合う。</p> <p>○自分たちの生活を振り返り、「これからはカード」を書く。</p>

【資料3 「かぞく大すき！」単元計画】

① 道徳の時間の主題配列の工夫

【資料3】のように道徳の時間①では、家族のよさに気づく学習体験を生かし、家族に対する感謝の気持ちをふくらませ、自分ができることをしたいという仕事への意欲を高めた。道徳の時間②では、家族のよさを味わう学習体験を生かし、仕事をするよさを感じ、家族のために働こうとする意欲を高めた。道徳の時間③では、家族のよさを大切にしていこう学習体験を生かし、家族の一員として、家族の様子に気づいて行動しようとする意欲を高めた。道徳の主題を「道徳的価値の理解→道徳的価値の把握→道徳的価値の実践化」の順序で配列することによって、総合単元「かぞく大すき！」のねらいである「家族を大切にしようとする心をもった子ども」を育てることができた。

② 3段階からなる家族のよさを生かした活動の構成

「家族を大切にすることを学んだ子ども」を育てるために、家族のよさを生かした活動を道徳の時間の主題配列に合わせ、「家族のよさに気づく→家族のよさを味わう→家族のよさを大切にしていこう」という3段階で構成することができた。


③ 道徳の時間の前後に家族のよさを生かした体験活動の位置づけ

道徳の時間の前後に家族のよさを生かした体験活動や道徳的実践の場である体験活動を位置づけることができた。

(2) 検証1


主題名「みんなのために」 4-(2) 勤労

資料名「ぼくにまかせてね」(文溪堂 1ねんせいのどうとく)

段階	主な発問	手立てと児童の様子
つかむ	<p>1 家で仕事をしたときのことを思い出し、めあてをつかむ。</p> <p>T:みんなは、お家でお手伝いをしましたね。そのとき、どんな気持ちでしたか。</p> <p>C:大変だったけど、お母さんから「ありがとう」と言ってもらった。</p> <p>C:喜んでくれたから、もっとしたいと思った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>仕事をする心をふくらませよう。</p> </div>	 <p>【資料4 体験の様子がわかるノート】</p>

つかむ段階の考察

A児は【資料4】をもとに、生活科で家族が喜んでくれた体験を想起し、「仕事をする心をふくらませよう」というめあてをつかむことができた。A児は学習ノートを見て、「大変だったけどがんばった。お母さんが喜んでくれた。」とつぶやいていた。体験をもとに仕事をしたときの自分の気持ちや家族の反応を想起させたことは、勤労の価値に関する自己の見方や感じ方を振り返らせる上で有効な手立てだったと考える。




段階	主な発問	手立てと児童の様子
求める	<p>2 資料を読んで、登場人物の気持ちについて話し合う。</p> <p>T:先生にほめられて思わず手に力が入ったとき、ぼくはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>C:先生にほめられて、うれしい。</p> <p>C:やってよかったな。今度から頑張ろう。</p> <p>C:すっきりして気持ちがいい。</p> <p>T:あなたも、そんな体験をしたことがありますか。</p> <p>C:家でお風呂そうじをしたら、お母さんから「きれいになったね。ありがとう」と言われて、明日も頑張ろうと思った。</p> <p>C:くつ並べをしたら、お父さんが帰ってきたとき「とっても気持ちがいいね」と言ってくれて、してよかったと思った。</p>	 <p>【資料5 場面の状況をつかむ板書】</p>

<p>T：友達が家でも仕事をしていることを知ったぼくは、どんな気持ちで「できることはないかなあ」と考えていたでしょう。</p> <p>C：ぼくだけ仕事をしていないからはずかしい。</p> <p>C：ぼくも何かしたい。</p> <p>C：友達みたいに、ぼくもやってみよう。</p> <p>T：「玄関のそうじはぼくにまかせてね」と言ったときのぼくの気持ちを役割演技をして考えましょう。</p> <p>T：あら、どうしたの。お母さんは今忙しいのよ。</p> <p>C：玄関のそうじはぼくにまかせてね。</p> <p>T：助かるわ。でも、毎日大変よ。できるかな。</p> <p>C：うん。いつもしてもらっているから。お母さんは他のことをしていいよ。</p> <p>T：ありがとう。よろしくね。</p> <p>T：どんな気持ちで言いましたか。</p> <p>C：お母さんが忙しくて困っているから、手伝おうと思った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>仕事をすると、気持ちがいい。</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>B児</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>C児</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">【資料6 児童のノート】</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">【資料7 表現活動 そうじをする役割演技①】</p>
--	--

求める段階の考察

【資料5】のように黒板を有効に活用し資料の場面を再現していったことは、場面の状況をつかませる上で有効だった。【資料7】の「玄関のそうじはぼくにまかせてね」と言ったときの表現活動（役割演技①）でB児は、【資料6】の、仕事が忙しい母親を手伝うことができうれしかった体験をもとに、「忙しくて困っているから手伝いたい」と表現している。またC児も、「いつも続けていたら喜んでくれる」と、手伝いをして母親が喜んでくれた体験をもとに役割演技を行っている。他の多くの児童も「日頃の感謝の気持ちがあるから仕事をしたい」、「困っているから仕事をしたい」と体験をもとに書いていた。このことから、ぼくの気持ちを捉えさせるために他者とのかかわりを生かした表現活動（役割演技①）を行ったことは、道徳的価値を把握させる上で有効であったと考

段階	主な発問	手立てと児童の様子
生かす	<p>3 家での仕事や係活動の経験を出し合う。</p> <p>T：みなさんも、ぼくみたいに他の人のことを考えて働いたことがありますか。</p> <p>C：毎日、お風呂そうじをしています。お母さんが「助かる」と言ってくれるよ。</p> <p>T：学校の中にも、みんなのために仕事をしていてくれる人がいます。みんなの給食を作っている調理員さんからお手紙をもらってきました。</p> <p>C：調理員さんって、私達のために働いていてすごいね。</p>	<p>こんにちは。私は、大乃池小学校でみなさんの給食を作っている、調理員の今村です。</p> <p>170人分の給食を作るのは、とても大変です。夏の給食室はとても暑いので、40度に近い気温の中、汗が滝のように流れてきます。水になると、野菜を洗う水がとても冷たくなります。手にしもやけがたくさんできてしまいます。だから、「今日は休みたいな」と思うこともあります。みなさんに安全においしく食べてもらうために毎日頑張っています。</p> <p>一番うれしいのは、みなさんが「ごちそうさまでした。おいしかったです。」と言ってくれるときです。「一生懸命作ってよかった、明日も頑張ろう」という気持ちになり、疲れも吹き飛んでしまいます。調理員の仕事をしています。よかったなと思います。</p> <p>私は、調理員の仕事に生きがいを感じています。これからも、みなさんが毎日「おいしかったです。」と言ってくれるように頑張ります。</p> <p style="text-align: right;">【資料8 調理員さんからの手紙】</p>

<p>4 自分でできる仕事や自分でできることを考え、「がんばるよカード」に書く。</p> <p>T：自分でできる仕事や、自分でできることを考えて、カードに書きましょう。家族にカードを渡す場面を役割演技でやってみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T：どんなことをしてくれるの。</p> <p>C：いつもありがとう。今日から毎日くつを並べるね。</p> <p>T：ありがとう。助かるわ。</p> <p>C：頑張るよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T：どんなことをしてくれるの。</p> <p>C：洗濯物を下ろしたり干したりするのを手伝うね。</p> <p>T：ありがとう。でも、毎日大変よ。</p> <p>C：大丈夫。できるよ。家族だから。</p> <p>T：ありがとう。よろしくね。</p> <p>C：うん。頑張るよ。</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>B児</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>C児</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">【資料9 がんばるよカード】</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【資料10 表現活動 カードを渡す役割演技②】</p>
---	---


生かす段階の考察

【資料8】の調理員さんからの手紙を紹介したことで、仕事に誇りや生きがいをもって誰かのために働くよさや感謝の気持ちをもつことができた。【資料9】のようにB児は、仕事が忙しい母親のことを思い、「お母さんが大変だから、がんばるね」と表現している。一方、C児は忙しい母親に代わって父親が家事をしているという生活の体験を想起し、「がんばるよカード」に「お父さんもがんばっているから、手伝うね」と表現している。ほとんどの児童が「がんばるよカード」に「家族が困っているから手伝いたい」、「自分も家族の一員として手伝いたい」と家の仕事をしたことを想起し、書くことができた。また、【資料10】のように「がんばるよカード」に書いたことを実際の場面を想定して表現活動（役割演技②）を行ったことは、自分が決めた仕事を実践しようとする意欲をもたせることに役立った。以上のことから、道徳の時間の価値内容と生活科の学習経験を結び付けて、勤労についてと家族の一員として協力しようという実践意欲を高めることができたと考えら

(3) 検証2



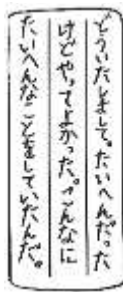
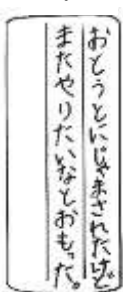
主題名「かぞくのために」4-(3)家族愛

資料名「るすばん」(日本文教出版 いきるちから)

段階	主な発問	手立てと児童の様子
つかむ	<p>1 家での仕事を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>T：みなさんは、お家でどうして手伝いをしたのかな。</p> <p>C：お母さんに頼まれたから。</p> <p>C：お母さんが忙くて大変そうだから。</p> <p>T：なるほど、手伝いは家族のためにしているんだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>家族を大切に思う心をふくらませよう。</p> </div>	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【資料11 家での仕事わかるノート】</p>


つかむ段階の考察

生活科での家族のために仕事をした体験を想起し「家族を大切に思う心をふくらませよう。」というめあてをつかませた。【資料 11】のようにA児は「大変だったけど、これからも頑張ります。」と表現している。家族のことを考えて仕事をしていたことを想起させたことで、家族愛の価値に関するものの見方や感じ方、考え方を振り返らせることができたと考える。

段階	主な発問	手立てと児童の様子
<p>求める</p>	<p>2 資料をもとに登場人物の気持ちについて話し合う。</p> <p>T：(弟役) お姉ちゃん、お帰りなさい。お母さんからお手紙を預かったよ。読んでみて。</p> <p>C：お留守番、嫌だな。</p> <p>C：好きなことができるかも。</p> <p>T：ねえねえ、一緒に遊ぼうよ。あっ、洗濯物がちらかっているよ。</p> <p>C：たたんだら、お母さんにほめてもらえるかも。</p> <p>C：お母さん忙しいから助かるだろう。</p> <p style="text-align: center;">※洗濯物をたたむ。</p> <p>T：ねえ！鬼ごっこして遊ぼうよ。</p> <p>あっ、洗濯物につまづいてちらかったよ。</p> <p>C：え～っ、仕方がないからもう一度たたもう。お母さんも助かるだろう。</p> <p style="text-align: center;">※洗濯物をたたむ。</p> <p>T：あっ、お母さんが帰ってきたよ。お帰りなさい。</p> <p>(母役) まあ、はるちゃんありがとう。お母さん、助かったわ。</p> <p>C：自分にできることをしてよかった。</p> <p>C：お母さんの役に立てて、うれしい。</p> <p>C：これからも続けよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>家族の一人として、できることを</p> </div>	<p>手立てと児童の様子</p>  <p>【資料 12 表現活動 場面状況をつかむ役割演技①】</p>  <p>【資料 13 役割演技①洗濯物をたたむB児】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>B児</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>C児</p>  </div> </div> <p>【資料 14 児童のノート】</p>

求める段階の考察

【資料 12】のように1時間を通して役割演技をしながら資料を読み進めたことは、場面の状況をつかませる上で有効だった。洗濯物が散らかる場面を何度も繰り返すことで、「大変だけど、お母さんを助けるために頑張ろう」と家族のために取り組むことの大変さに気づかせることができた。【資料 13】の表現活動（役割演技①）の中でB児は、「お母さんが大変だから手伝いたい」と表現している。これは、自分の今までの体験【資料 14】「大変だったけどやってよかった。こんなに大変なことをしていたんだ」をもとにしている。一方、C児は仕事をしてほめられた経験から、「弟にじゃまされたけど、またやりたい」と書いている。他の多くの児童も「やってよかった」「またやりたい」という内容を体験をもとに書いていた。このことから、道徳の授業に生活科の学習での体験を生かしたことは、道徳的価値を把握させる上で有効であったと考える。

段階	主な発問	手立てと児童の様子
生かす	<p>3 家族の様子に気づいて行動している場面の役割演技をし、自分の経験を出し合う。</p> <p>T：ただいま。今日も仕事で疲れたな。 C：お帰りなさい。お父さん、いつもありがとう。肩たたきしてあげるよ。</p> <p>4 本時を振り返り、「これからはカード」を書く。 T：家族の一人として、自分にできることを考え行動することが大切ですね。「これからはカード」を書きましょう。 C：今までは、忙しいのに掃除をしてくれてありがとう。これからは、自分でするよ。</p>	 <p>【資料 15 経験を出し合う役割演技②】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B 児</p> <p>このころの経験として、お父さんが帰ってきたら、いつもありがとうと肩たたきをしてあげよう。お父さんが帰ってきたら、いつもありがとうと肩たたきをしてあげよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>C 児</p> <p>ありがとうございます。お父さん、いつもありがとう。肩たたきしてあげるよ。</p> </div> </div> <p>【資料 16 これからはカード】</p>

生かす段階の考察

道徳的価値の実践化につなぐ表現活動（役割演技②）で【資料 15】のように、C児は父親が仕事から帰ってきて疲れているだろうという生活経験をもとに、肩たたきをしている。家族の様子に気づいて行動した自分の経験を出し合ったことは、実践意欲をもたせる上で有効だったと考える。【資料 16】のように「これからはカード」には、多くの児童が体験をもとに「いつも〇〇をしてくれてありがとう。これからは自分でするよ」と感謝の気持ちを書くことができた。このことから、生活科での体験と道徳の時間の価値内容を結び付けて、家族の役に立つことの喜びをとらえ、家族の様子に気づいて進んで行動しようという実践意欲を高めることができたと考えられる。

7 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 主題を「道徳的価値の理解→道徳的価値の把握→道徳的価値の実践化」の順序で配列したことは、家族を大切にすることを育てる上で有効だった。
- 道徳の時間の前後に体験活動を位置づけたことは、道徳的価値の自覚を深める上で有効だった。
- 1時間の道徳の学習の中に他者とのかかわりを生かした表現活動（役割演技①、②）を取り入れたことは、1回目で資料中の人物の気持ちを考え、2回目で道徳的価値の実践化へつなぐことができ、有効だった。

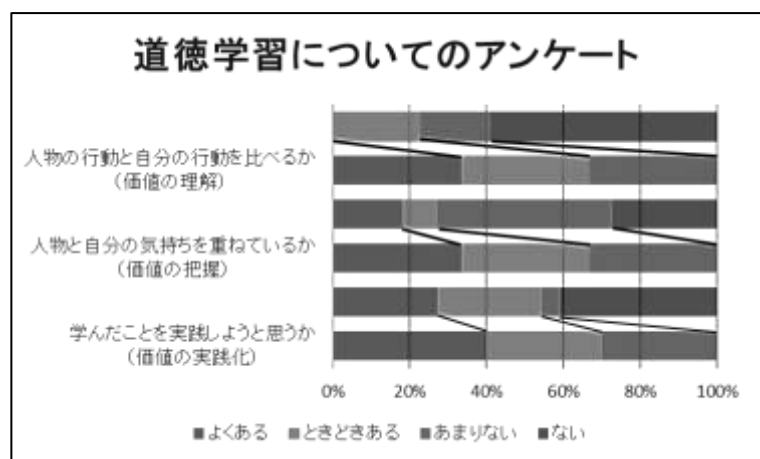
(2) 今後の課題

- 問題解決的な道徳の時間の学習
- 生活科以外での体験活動との関連のさせ方

<参考文献>

- ・文部科学省 平成 20 年 小学校学習指導要領解説道徳編
- ・文部科学省 平成 27 年 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編

東洋館出版社



【資料 17 事前、事後アンケートの比較】